



図189 遺跡の位置
2万5000分1地形図「松
浜」・「新発田」

上黒山遺跡 北区太田

上黒山遺跡は、佐々木―黒山―葛塚を結ぶ、市内で最も内陸に形成された砂丘上に立地する。県道二六号線がこの砂丘の頂部を走り、また、永徳寺や不動寺、本空寺などがこの砂丘に沿うように建立されている。

遺跡は、昭和四十一（一九六六）年ころに、標高六メートルほどの小高い砂山を切り崩した際に、縄文時代前期後半（約五〇〇〇年前）の土器と、古墳時代前期（約一七〇〇年前）の土師器が出土したことによって偶然発見された。しかし、土取りのためほぼ全壊してしまったものと思われる。

遺跡が発見された際にまとまって出土した古墳時代の土器は、壺二個体（図一九〇―一・三）と小形の甕一個体（同二）である。壺三は二重口縁で全面に赤色が塗られ、きめ細やかな粘土で作られている。また、口縁部には櫛歯状の工具による模様が施され、体部上半には粘土紐が貼り付けられ、その上にヘラ状の工具による模様が施されている。これらの特徴から、この壺は何らかの祭祀の時に使われた土器と考えられる。壺一は口縁部が「く」の字状に外反しており、胴体部は球状になっている。甕二は口縁部と体部の間に段がある。上黒山遺跡で出土した土師器は、畿内方面や北陸地方の影響がうかがわれる。



図190 古墳時代前期の土師器 1, 高さ23.7センチメートル 2, 高さ7.4センチメートル 3, 高さ23.5センチメートル

これらの上黒山遺跡出土品は、昭和五十九（一九八四）年に豊栄市文化財に指定され、新潟市文化財に継承されている。

北区にはほかにも正尺遺跡（しょうじやく二一八ページ）、葛塚遺跡（二二〇ページ）、松影遺跡、城ノ潟遺跡などの古墳時代の遺跡がある。弥生時代に比べて遺跡の数は増え、砂丘に立地する遺跡だけでなく、自然堤防に立地する遺跡も出てくる。このような沖積地ちゅうせきに立地する遺跡は農耕と深い関係があるものと思われる。また、広い範囲で遺物が採集できることから、遺跡の規模も大きくなっていると考えられる。この地域の古墳時代の遺跡はすべて同じ時期に営まれたわけではないが、出土品から見て、古墳時代を通じて、ヤマト政権が越後平野に進出してきている様子が見える。